普及だより
# ふじつ
第104号
発行・編集
杵藤農林事務所
藤津農業改良
普及センター
TEL0954-62-5221

ひと シーズン
シリーズ51

## 『美味しいミカン、ブドウ、モモを消費者へ届けたい』

**松本　有希さん（鹿島市）**

今回は、鹿島市母ヶ浦地区でカンキツ３００ａ、ブドウ１４ａ、モモ１０ａを経営されている松本有希さんを紹介します。

松本さんは高校卒業後、民間企業に従事されていましたが２１歳の頃、小さいころからそばにあったミカンに魅せられ、就農されました。就農当時はカンキツ専作での経営をされていましたが、現在は周年で収益を上げる農業経営を行うために、ブドウ、モモを加えた果樹専作経営に取組まれています。果樹の中でも異なる品目を栽培するため、当初は、技術の習得に苦労をされましたが、今では、毎年、いずれの品目も高品質な果実を安定生産できるまでの栽培技術を習得されています。

また、自身の経営発展を図るため、カンキツにおいては改植事業を活用した「ゆら早生」等の優良系統への品種更新を積極的に進めており、ブドウにおいては消費者ニーズに合わせた優良系統のシャインマスカットの導入や「巨峰」の無核栽培に取り組まれています。

果樹生産を行う上で、子供たちや消費者が「美味しい！」と言って、食べてくれることがなによりの喜びと語る松本さん。

２２歳から１７年間、ＪＡさが七浦支所青年部の一員として、先進地視察や研修会等に積極的に参加し、日々努力されてきました。また、今年度からは青年農業士として活躍されており、藤津地区の若きリーダーとして、今後ますますのご活躍を期待しています。

# 受賞おめでとうございます

## 山口十美子氏が緑白綬有功章を受章

太良町の山口十美子氏（（株）明日香園）は、令和元年１１月２１日に東京都で開催された令和元年度農事功績者表彰式において、「緑白綬有功章」を受章されました。オリエンタルユリやケイトウで構築した明日香園ブランドは全国的にも知名度の高い存在であり、国内外の研修生受入れや地域での花育活動等から、農業発展への貢献が認められました。今年度からは県農業士会の会長も務められており、今後のさらなる活躍が期待されます。

## ＜佐賀農業賞＞

### 先進的農業経営の部　優秀賞　太良町　澤山直人氏・里美　氏

澤山氏は、１０月から翌年６月まではミカンとカンキツ類を組み合わせた青果を販売、それ以外の時期はジュースやゼリー等加工品の開発と販売を行い、周年的に収入が得られる経営を実践されています。

また、通販や直売所での販売では、消費者との強い信頼関係を築くことで多くのリピーターを獲得し、現在はふるさと納税の返礼品にも選定されるなど、相場に左右されない安定した経営を実現されています。

さらに、現在、農業士果樹部会や直売所の会長として若い世代への技術継承や耕作放棄園の引き受けの活動も行われており、将来に向けた地域の維持発展のために様々な取り組みを行われています。

### 若い農業経営者の部　優秀賞　鹿島市　小池真澄氏・秀美　氏

小池氏は、カンキツ栽培を中心とした複合経営で、品種の更新により労力軽減を実現されています。極早生温州から早生温州へと改植を行うとともに、稲刈り作業や玉ねぎの定植と、温州ミカンの収穫時期が重なるのを防ぐため、極早生温州からレモンへの改植も進めています。レモンへの改植を進める事で、収穫期間を温州ミカンより長くとることができ、優先順位を考慮した作業分散ができるようになりました。

家族経営の労働力を最大に活かすことができ、また、限られた中山間農地の有効活用を主眼として、少量多品目で高品質な農作物づくりを行っておられます。

### 地域農業活性化の部　優秀賞　嬉野市　白川久美子　氏

白川氏は、結婚を機に農業に携わられて５０年余り、現在は茶栽培面積６０ａと地域では小規模であるものの、労働力にあった経営規模で適期管理と土づくりを基本とし、品質の良い生葉生産に努められています。

平成元年からは農家生活指導士を始め、農業委員、ＪＡ女性部や理事など地域女性のリーダーとして、また農村女性の代弁者として、各種役員を歴任。さらに、小学校等での食育活動や地域の直売所や加工所の運営にも尽力されています。

今後も地域の活性化、子供達に農業の素晴らしさを伝え、故郷の発展に貢献していければと考えられています。

## 吉牟田敏光・由紀子夫妻が農林水産大臣賞を受賞

嬉野で釜炒り茶を生産されている吉牟田敏光・由紀子夫妻が、第７３回全国茶品評会「釜炒り茶の部」において農林水産大臣賞を受賞されました。茶畑の土づくりから棚施設による光量調節、製造に至るまで、徹底した管理を行われました。受賞した釜炒り茶は、強いうま味と釜炒り茶らしいすっきりとした香味が特徴で、全国で高く評価されました。

吉牟田夫妻は嬉野南部釜炒茶業組合の組合員として、釜炒り茶の生産に励まれています。組合は設立１７年目を迎え、品評会への積極的な出品やASIAGAP認証取得により、伝統ある釜炒り茶のブランド化と良質茶の安定生産に向け尽力されています。今後も更なる活躍が期待されます。

# 技術の窓

## 新品種“いちごさん”の栽培確立による産地の活性化

佐賀県新品種“いちごさん”がデビューし、本格的な導入に向け取り組んでいます。しかし、昨年度は、ブランド戦略上必須となるクリスマス需要期に十分な生産量を確保できず、課題が残りました。

本年度は、初期収量向上を目的に、育苗から定植時期及び株づくり等の指導内容を検討し、作付け希望農家３７戸への技術支援に努めました。その結果、作付面積は２．９haに拡大し、年内収量（１０ａ当たり）は、前年対比１１８％で、販売金額は目標額の１００万円を達成しました。

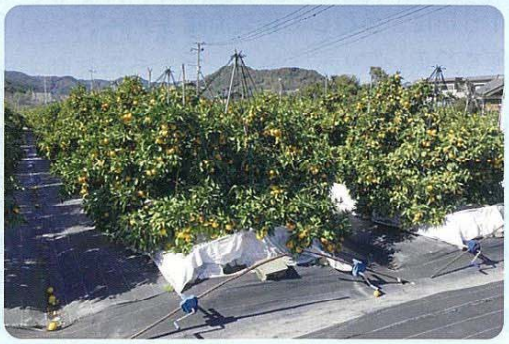
今後も収益向上に向けた栽培技術を検討し普及を図ります。

## 根域制限栽培で高品質ミカンの安定生産を

佐賀県は、全国の温州ミカン産地の中でも年間降水量が１８００㎜と多い県です。そんな中でも、高品質な果実が安定して生産することが可能な技術として根域制限栽培の導入が進んでいます。現在、杵藤地区では６６２ａが導入されており、来年度以降も導入面積が増える見込みです。

今年度は夏秋期の多雨により、県内だけでなく全国各地の露地ミカンで果実品質が伸び悩んだ年となりました。そのような中でも、根域制限栽培ミカンは各生産者の努力により、糖度１２度程度のミカンが生産されています。

これから温暖化による異常気象がますます懸念される中でも、根域制限栽培で美味しいミカンを作りましょう。



# 地域トピックス

## 農業・農村を元気にするシンポ！

### 11月7日、嬉野市リバティにて開催

元気な農業女子の活躍を広めていくためのシンポジウムを開催しました。

杵島藤津地区には、全国に誇れる活動もあれば、正しく生まれたばかりのチャレンジも多くあります。その中から①「カチカチ農楽が～る」の活躍②体験型観光梅園の取り組み③ブルーベリー農園カフェの開店の事例発表をしていただきました。また、兵庫県の農事組合法人「きすみの営農」から、ママ友でつくる「きすみ農 Girl」が、地域水田農業を活性している事例を紹介してもらいました。女性の活躍で、消費者と結びつき経営安定につながっている共通点がそこにはありました。

## 酒造会社と連携した「酒米の生産法人」ができました

県内最大の酒米産地である嬉野市塩田町において、良質な山田錦の生産拡大を目指し「一般社団法人　五町田地区酒米生産組合」が設立されました。

新たな酒米の生産法人は、酒蔵が望む高品質な山田錦の生産を企画・調整し「農業者」と「酒造会社」を結びつける役割を担っています。

山田錦は前年作が大豆だった圃場で作付けすると倒伏しやすいため、酒米品質が一定しない課題があります。そこで法人は山田錦の倒伏を防ぎ、高品質な酒米を生産するため、大豆あとでの作付けとならない様に作付けの団地化等の調整と、水管理の共同化などを進めています。

## 茶乃芽＆藤津農業女子マルシェ in チャオシルマーケットを開催しました！

藤津地区の若手女性農業者によるマルシェが、１２月１５日に、うれしの茶交流館「チャオシル」前広場で開催されました。

若手お茶農家グループ「茶乃芽（ちゃのめ）」の『嬉野茶と和スイーツカフェ』をはじめ、『ほっとレモネード＆ジンジャーエールカフェ』、『金星佐賀豚のあつあつメンチカツ』、藤津農業女子の自慢の野菜や果物、花、農産加工品のマルシェコーナーなどが出店され、多くのお客様でにぎわいました。今後も、農業で頑張っている若手農業女子の活躍が期待されます。